

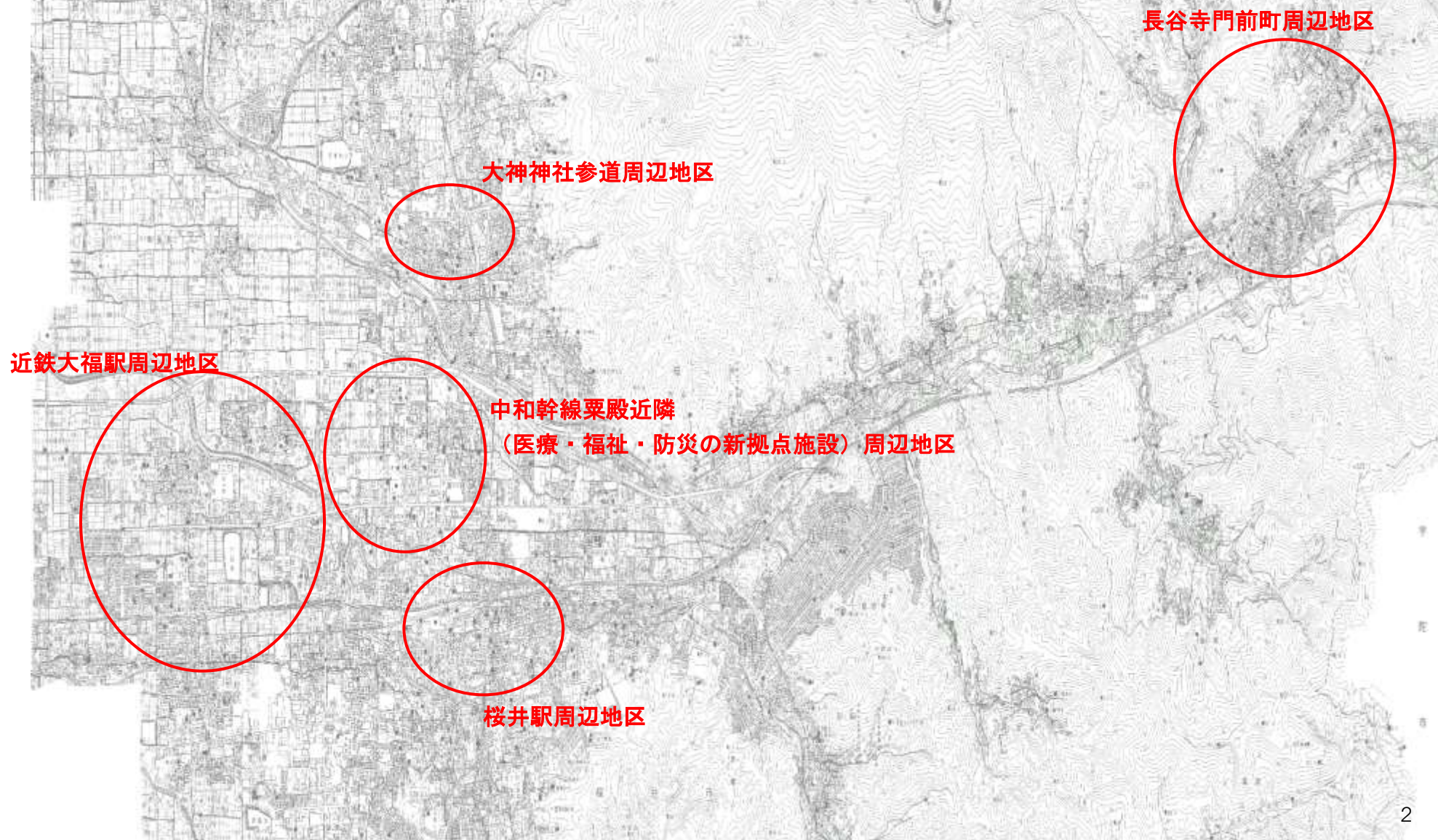
桜井市のまちづくりについて



桜井市

平成26年12月22日

桜井市プロジェクト 位置図



**①中和幹線栗殿近隣（医療・福祉・防災の新拠点施設）周辺
地区のまちづくり**

まちづくりのコンセプト

目指す将来ビジョン

基盤となる取り組み等

高齢者・子育て世代にやさしい、協働による福祉・医療・防災の拠点づくり

在宅医療充実、地域包括ケアシステム構築、子育て支援、広域消防化、救急医療

【拠点施設：総合庁舎跡地】

- ・市内各所に点在している「子育て」「健康」「医療・福祉ケア」の機能集約・連携強化。妊娠・出産・育児の切れ目のない支援
- ・地域包括ケアの専門部署を設置し、地域包括ケア支援センター間をコーディネート
- ・乳幼児保健の利便性向上、広いスペースを確保
- ・サイクリングターミナルを設置し、ならクル利用者によるにぎわいづくり
- ・山の辺の道ウォーキングの新しい起点とした観光案内機能

【拠点施設：土木事務所跡地】

- ・桜井消防署を機能移転し、奈良県中央部、東部の消防防災の拠点化
- ・休日応急診療所（総合庁舎跡地）の近接による救急医療連携の充実

【周辺まちづくり】

- ・歩道整備など利用者に優しい導線の確保
- ・市内サイクリング・ウォーキングルートの新設による健康づくり
- ・公園整備による子育て支援や健康づくり
- ・子どもの一時預かり機能の充実



②大神神社参道周辺地区 のまちづくり

1 めざす沿道の姿

沿道の現状・特徴、沿道まちづくり方針の必要性を踏まえ、これからのまちの姿として以下のような状態をイメージします。

○沿道での来訪者の過ごし方

- ・歩いていると三輪山が見え隠れする、又は存在を感じることができ、大神神社への期待感が持てる。
- ・大神神社に向かうにつれて、神聖な雰囲気を感じることができる。
- ・門前町としてのまちなみや飲食などを楽しむことができる。また、まちなかとの人の往来が生まれている。

○沿道での生活者の過ごし方

- ・沿道及びまちなかに豊かなコミュニティがあり、子どもやお年寄りなど多世代が安心して暮らしている。
- ・地域の伝統文化が継承され、季節感が感じられる彩り豊かな生活や祭事がある。
- ・安心・安全で歩きやすく、緑が豊かで散歩したくなる。
- ・雰囲気のある参道の商店等で働くことができる。

最古の歴史、自然の神霊を崇め、大切にしている人々の暮らしや
生業が感じられ、心清らかに参拝や散策を楽しめるまち

2 沿道まちづくりの目標

目標1 参道らしさを感じさせるまちなみの形成

- ・神聖な雰囲気を感じられる「眺め」を守る
- ・歴史性・統一感が感じられるまちなみをつくる

目標2 魅力の集約・連続性の確保による賑わいの創出

- ・既存の魅力と新たな魅力によるまちなみの連続性を生み出す
- ・まちなか（商店街）との人の流れをつくる

目標3 四季の彩り・人々の営みが息づく空間の演出

- ・季節の行事、祭事が催される空間をつくる
- ・地域の暮らしや生業を体感できる仕掛けをつくる

3 沿道まちづくりを考える3つのゾーン

三輪街路沿道のまちづくりを考えていく上で、以下の3つのゾーンを形成します。



4 沿道まちづくり方針の今後の活用について

■参道らしさを感じさせるまちなみの形成に向けて

- ・本市の景観計画における「重点景観形成区域」として、具体的な景観のルールづくりを行い、三輪山への眺望の確保や、歴史性が感じられるまちなみの修景・統一感の創出に向け、沿道の建築物等の景観を誘導していきます。
- ・参道の道路空間については、「無電柱化」「美しい松並木の保全・再生」「灯籠設置等による宗教的演出」等により、沿道と調和した空間デザインの検討を行います。

■魅力の集約・連続性の確保による賑わいの創出に向けて

- ・まちなか交流ゾーンを中心に、まちなみの連続性が創出されるよう、既存建物の沿道での立地継続に加え、新たな機能（商業施設・住宅等）の誘致に努める一方、境内へのエントランスゾーンでは、商業施設の新規立地や車両の通行に関する具体的なルールづくりの検討を行います。

■四季の彩り・人々の営みが息づく空間の演出に向けて

- ・地域住民・団体等が主体となり、沿道及び道路空間を活かした四季折々の祭事やイベントを展開していきます。
- ・建物や空間を利用した、体験や交流の場づくりの仕組みを構築していきます。



③近鉄大福駅周辺地区の まちづくり

■ 地域の現状

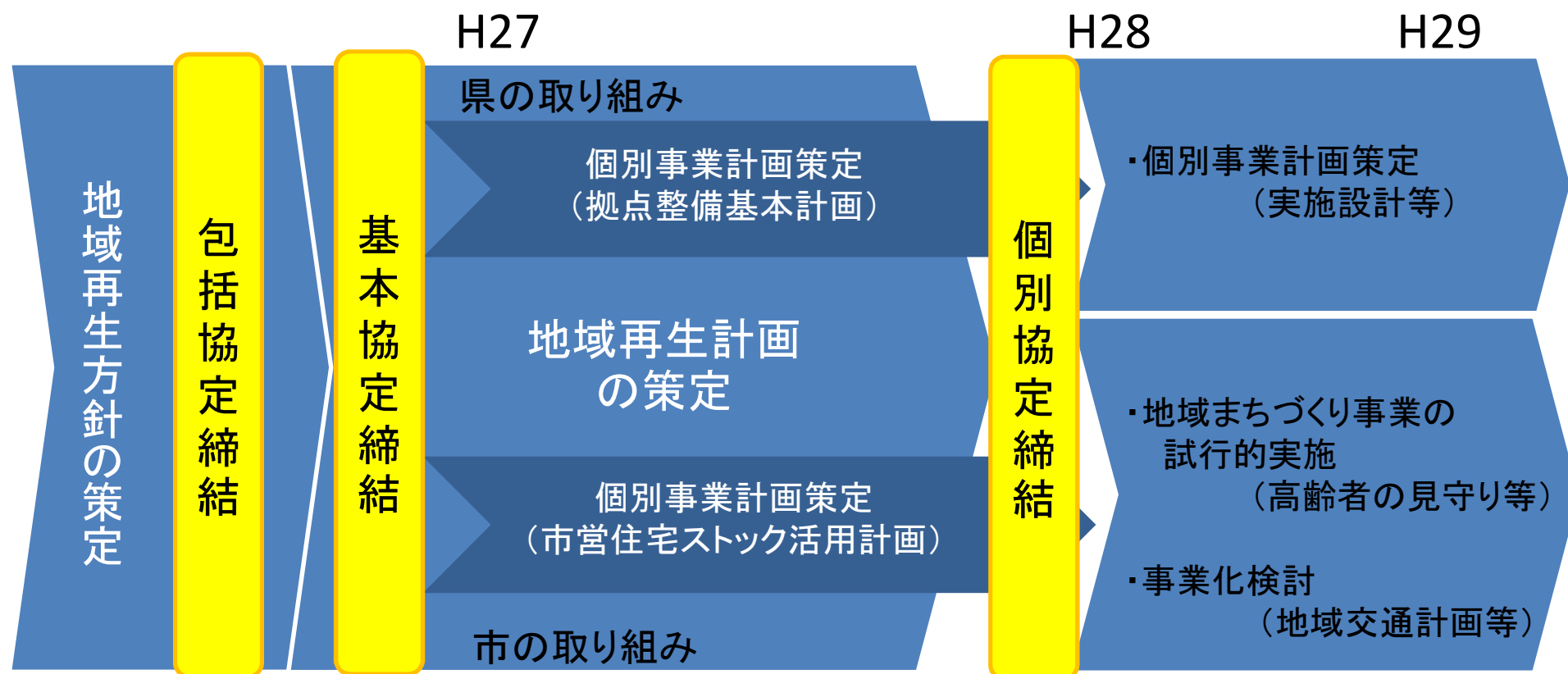
大福駅や中和幹線等からの徒歩圏内に、様々な世代・世帯が居住されているため、これらの地域を繋ぐこと及び地域の拠点を整備することで、多様性のある地域住民の暮らしが持続的に継承可能

■ 具体的取り組み（案）

- コミュニティバス等により繋げることで、様々な世代の住民が自動車に依存しない、歩いて暮らせる街を形成
- 地域内の路地も活かし、歩いて楽しい街をつくる仕掛けづくりについて地域と協力して取り組む
- 高齢者の集いの場や地域交通、在宅介護等の拠点空間を創るため、県営住宅敷地を活用した拠点整備を検討



来年度以降の取り組み(案)





④桜井駅周辺地区の まちづくり

(目指すイメージ)

- ・ 市の中心拠点区域として、地方都市リノベーション推進施設を再整備する地区。
- ・ 既存ストックである駅前ビルなどを再生・利活用し、子育て支援施設や教育文化施設を設置するとともに、地域交流センター、商業施設も誘致、併せて既存商店街の活性化を目指す。(子育て支援、商店街活性化、賑わいの復活等)

(地域特性)

- ・ 桜井市の玄関口である桜井駅の南口エリア
- ・ 民間まちづくり活動が盛んで、官民協働で地域の未来を考える検討会(官民共同)も発足している
- ・ 総合計画では、多世代居住戦略拠点、観光・産業連携拠点として位置づけられている

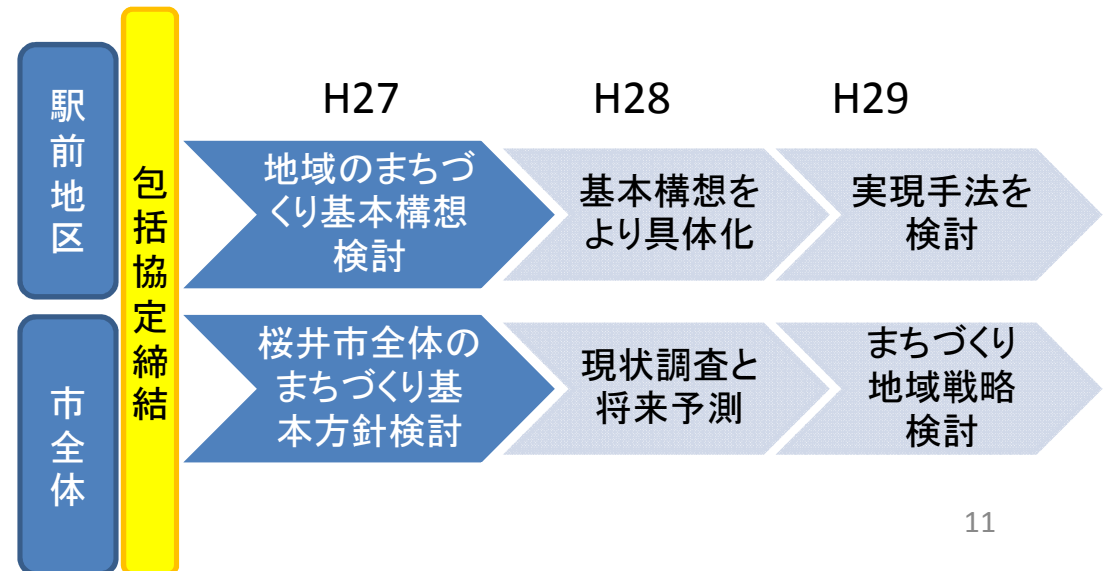


平成3年の市街地再開発事業でオープンしたエルト桜井

(平成27年度の取り組みのイメージ)

- ・ 現在行われている駅前まちづくり検討会からの提言(H27中予定)を受け、地域の現状を踏まえた上でまちづくり構想として整理する
- ・ まちづくりを考える上で市全体からの視点は不可欠であるため、まちづくり全体の基本方針作成を検討する

(来年度以降の取り組み)





⑤長谷寺門前町周辺地区 のまちづくり

(目指すイメージ)

- ・ 長谷寺を中心に観光振興を柱にまち興しを図る地区
- ・ 門前通りの活性化につながる施設整備を行うとともに、地元NPOと連携し振興施策の展開を図ることにより、地域活性化を目指す。

(地域特性)

- ・ 市を代表する観光資源である長谷寺の周辺を中心とした観光・産業連携拠点
- ・ 定期的にまちづくり会合(民間主体)が行われ、住民意識も高まりつつある
- ・ 一方で人口減少率や高齢者比率が市平均より大幅に高く、早急な対策が必要

(平成27年度の取り組みのイメージ)

- ・ 当地域にはNPOやまちづくり会社も存在し、景観まちづくりの会が定期的に会合を行い、組織的には充実している
- ・ 来年度は上記組織の役割を整理するとともに、地域の現状と過去に提出された提言書の内容を踏まえ、地域まちづくりの基本構想を検討する



新しく始まったイベントも定期的(毎月18日)に行われることで、着実に固定客が増えている

(来年度以降の取り組み)

